

小学校第5学年 音楽科 学習指導案

期 日 平成23年9月20日(火)第5校時

場 所 甲佐町立龍野小学校 音楽室

指導者 教諭 濱本 美樹

1 題材名

「日本の歌に親しもう」(教育芸術社)

教材名 「わらべ歌」(「あんたがたどこさ」他) 「子もり歌」(共通教材 日本古謡)

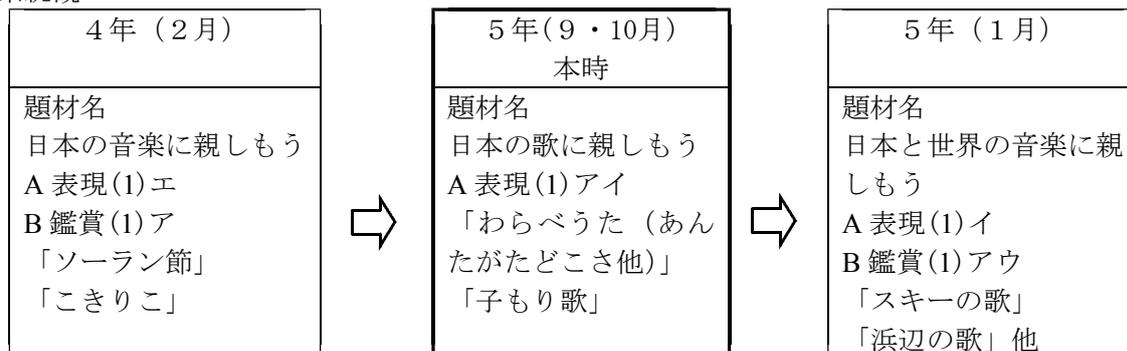
2 題材について

(1) 題材観

本題材は、日本の旋律の特徴や五音階による日本の音楽の雰囲気を感じ取って歌ったり、歌い方を工夫したりすることをねらいとしている。学習指導要領のA表現(1)歌唱の「A 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと」イ「歌詩の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」に関連する題材である。

「わらべ歌」や「子もり歌」は、我が国の伝統的な音感覚に根ざした音楽であり、古くから人々の間で親しまれてきた。これらの曲の多くは、単純なリズムで構成され、素朴でしかも優雅な曲調をもっている。「わらべ歌」においては、いろいろな遊びと結び付いており、旋律やリズムが自然で美しい。教材で取り扱う「子もり歌」も同様であるが、加えて歌詞は情感に溢れている。また、律音階と都節音階による二つの旋律があり、どちらも「眠らせ歌」である。ここでは、子どもをゆったり寝かしつけるときのような優しい心遣いで歌う律音階の曲と、労働に対する子守りのつらい気持ちを込めた都節音階の曲の両方を取り扱う。そこで音階による旋律の変化を理解させた上で曲の雰囲気の違いを感じ取らせ、表現を工夫させたい。また、これらの「わらべ歌」と「子もり歌」を通して、平易で歌いやすい日本の音楽に親しみをもたせるとともに、日本の歌の特徴的な音階に気付かせながら、その曲のもつ情感を工夫し、歌うことに主体的に取り組ませたい。

(2) 系統観



(3) 児童観

本学級の児童は、男子10人、女子8人、計18人である。歌を歌ったり、音楽を聴いたりすることを好む児童が多い。本題材を指導するにあたって、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「指導と評価」にする意識調査を行った。

○「音楽への関心、意欲、態度」に関する調査結果

音楽の学習が好きですか。はい(17人) いいえ(1人)であった。好きな理由としては、みんなで楽器を演奏することが楽しい(10人)、いろいろな音楽を聞いたりできる(4人)、合唱するのが好き(3人)、歌うのが好き(2人)で、どちらかというとも楽器を演奏することを好んでいる。嫌いという理由は、「苦手・すべて嫌い」だった。「できない」と思うことには、気持ちが向かないところがある児童で、苦手だと思ふ気持ちが強いのだと思う。しかし、「できるようにになりたい」という思いはもっており、熱心に楽器の練習をしたり、大きな口を開けて歌ったりもしている。以下は、4段階で評価したアンケート結果である。

「歌うことが好きですか。」

好き(9人) どちらかといえば好き(7人) どちらかといえば好きでない(1人) 好きでない(1人)
「音楽の学習は大切だと思いますか。」

思う（9人）どちらかといえば思う（7人）どちらかといえば思わない（1人）思わない（1人）
「音楽の学習は自分の将来のためになると思いますか。」

思う（5人）どちらかといえば思う（6人）どちらかといえば思わない（7人）思わない（0人）
「音楽の学習は心が豊かになると思いますか。」

思う（5人）どちらかといえば思う（10人）どちらかといえば思わない（2人）思わない（1人）

○「音楽表現の創意工夫」に関する内容

「歌うときに歌詞の内容を考え、気持ちを込めて歌っていますか。」

思う（2人）どちらかといえば思う（12人）どちらかといえば思わない（4人）思わない（0人）

「歌うときに曲の雰囲気と結び付けて、音色や強弱などに歌い方を工夫していますか。」

している（3人）どちらかといえばしている（10人）どちらかといえばしていない（4人）していない（1人）

○「指導と評価」に関する内容

「毎時間の目標が達成できていますか。」

できている（5人）どちらかといえばできている（9人）どちらかといえばできていない（4人）できていない（0人）

「授業の中で先生のアドバイス（指導や評価）を生かしていますか。」

している（10人）どちらかといえばしている（4人）どちらかといえばしていない（2人）していない（2人）

「授業の中で先生のアドバイス（指導や評価）を次の授業に生かそうとしていますか。」

している（6人）どちらかといえばしている（7人）どちらかといえばしていない（4人）していない（1人）

(4) 指導観

○取り扱う「わらべ歌」は、2音、3音、4音、5音と段階を追って音程感とリズム感を育てていく。その中で、音楽の諸要素である「音階」「旋律」「音色」「リズム」を自然と意識して演奏し、それらを身に付けるようにする。教具として、リズムカード、五線譜シート、電子黒板を活用し、一人一人の力を確実に高める手立てとしたい。

○日本の音階について、2音～5音の構成音を段階的に増やした学習を行うことで、日本の旋律の特徴が音階にあることに気付かせたい。さらに、日本の特徴的な律音階と都節音階の旋律の違いが曲想の違いに関わってくることに気付かせ、曲想表現を工夫させたい。

○学習過程を大きく四つの段階で構成し、音楽の諸要素を知覚・感受する力、すなわち思考・判断・表現する力を高めたい。そのためにまず、「経験」の場を置き、これまでの経験と連続性を持つよう配慮し、楽しい経験の場としたい。さらに、音楽の構成要素を分析して捉える場面を「分析」の場面とし、児童は自然に楽しんでいた音楽を客観的に考えさせ、楽曲の特徴である一部を取り出して考えさせることで曲の構成要素について学ばせたい。そして、再度構成要素の知覚・感受を再統合させる場を「再経験」として設定し、今まで、漠然と表現していたものを、音楽の構成要素を知覚・感受して歌う場面としたい。最後に「評価」では、「音楽表現の創意工夫」の評価は見えにくい力であるために、「アセスメントシート」等を作成し、このシートにより、指導内容として設定した構成要素に関する子どもの力がどう育ったか等を確認したい。

○「わらべ歌」と「子もり歌」を通して、日本の歌のよさを味わい、歌い継ぐことの大切さに気付かせたい。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の観点から

本題材における思考力、判断力、表現力等とは、音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きが生み出す面白さを感じ取るという「音楽的な感受」を大切にしたい授業展開により身に付く力のことである。また、その評価としては〔共通事項〕アである音楽の諸要素を学習の支えとしながら、音楽表現を創意工夫する力を育んだその学習状況を評価する。しかし、A「表現」の学習では、「音楽表現の創意工夫」に係る力と、「音楽表現の技能」に係る力の両者を相互にかかわらせながら伸ばしていくことが大切であるので、音楽の諸要素に着目し、知識を裏付けた技能を身に付けさせるようにする。主な評価方法としては、児童の発表などの観察に加えてアセスメントシートを作成し、知覚・感受力がどう育ったかを図る。学習過程においては、リズムカード、五線譜シート、電子黒板といった児童の教具の操作を確認することで、個に応じた指導の手立てとする。

音楽への意欲・関心・態度については、日本の音階の特徴を体験的な音楽活動に主体的に取り組んでいるかを、歌唱表現や発表、教具の操作の観察及び児童の自己評価により評価する。

3 題材の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

題材の目標	日本の音楽の特徴を感じ取って、そのよさを味わいながら表現することができる。
音楽への関心・意欲・態度	日本の旋律の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	旋律、音階、音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、歌うことに思いや意図をもっている。
音楽表現の技能	「わらべ歌」や「子もり歌」の雰囲気合った表現の技能が身に付いている。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い 検証授業1/4、3/4）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの視点から	評価基準(基準B) (評価方法)
1	1	○「わらべ歌」に親しむ。 ・「月か雲か」 ・「おてぶしてぶし」 ○それぞれの「わらべ歌」のリズムや構成音について知る。 ○リズムや構成音を感じながら「わらべ歌」にふさわしい歌い方で歌う。	・ゲーム的要素を取り入れ、「わらべ歌」に興味をもたせると同時に学習への意欲を高める。 ※リズムカードとフェルトの五線譜を活用し、使われているリズムと構成音を確実に習得させる。	音楽への関心・意欲・態度 （発表・観察、自己評価） 「わらべ歌」の特徴を生かした表現に主体的に取り組もうとしている。 音楽表現の創意工夫 (アセスメントシート・発表) リズムと構成音に気を付けながら、「わらべ歌」にふさわしい歌い方を工夫して歌っている。
	2	○わらべ歌「あんたがたどこさ」を歌う。 ○構成音やリズムを調べる。 ○律音階の構成音やリズムを感じ取って、曲にふさわしい歌い方で歌う。	※リズムカードとフェルトの五線譜を活用し、使われているリズムと構成音を確実に習得させる。 ・身体表現によりこの曲の弾んだ感じや楽しさを感じさせるようにする。	音楽表現の創意工夫 (アセスメントシート・発表) 律音階とリズムから曲の雰囲気を感知取って、身体表現をしながら歌っている。
2	3	○律音階の「子もり歌」と都節音階の「子もり歌」の構成音の違いを考える。 ○音階による雰囲気の違いを感じ取って歌う。	・拡大楽譜を提示することで二つの曲の違いに気付く手立てにする。 ※電子黒板で音を探らせる。 ※五線譜に音階を表すことで、5音のどの音が違うかをつかむ手立てとする。	音楽表現の創意工夫 (アセスメントシート・観察) 律音階・都節音階のそれぞれの旋律と曲の雰囲気の関わりが分かり、曲想表現に生かそうとしている。
	4	○二つの「子もり歌」を歌い、雰囲気の違いを確認する。 ○律音階と都節音階の「子もり歌」に込めた思いを想像し、歌声にその思いをのせて表現する。 ○グループで表現を工夫し合った成果を発表する。	・曲の背景を伝える。 ※それぞれの子守歌にどんな思いを込めるかを、ワークシートに記入させるようにする。 ・歌声に加えて、表情や動作を工夫させることで、思いを伝えさせるようにする。	音楽表現の創意工夫 (演奏・ワークシート) 曲に込める思いを想像したことが、ワークシートに書いていたり、グループの中で自分の考えを伝えられる等、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 音楽表現の技能 （発表） 「子もり歌」の曲想にふさわしい表現力が身に付いている。

5 本時の学習（検証授業Ⅰ）

(1) 目標

「わらべ歌」の構成音とリズムを感じとり、「わらべ歌」にふさわしい歌い方で歌う。

(2) 評価基準

- (基準B) リズムと構成音に気を付けながら、「わらべ歌」にふさわしい歌い方を工夫して歌っている。
 (基準A) 「わらべ歌」にふさわしい歌い方で表現するとともに、この曲の工夫点をアセスメントシートに具体的に記入している。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
経験 10分	1 「わらべ歌」に親しむ。 ・2音「月か雲か」 ・3音「おてぶしてぶし」 【一斉】	○後について歌ってみましょう。(ハミング→ラララ→歌詞) ○「わらべ歌」について知っていることを発表しよう。	○ハミングやラララで歌うことで自然で無理のない発声をつかませるようにする。 ○「わらべ歌」は、子どもの遊びの中から自然に生まれたこと、長い間歌い継がれていることを知らせる。 ○ゲーム的要素を取り入れ、「わらべうた」に楽しく取り組ませるようにする。	歌詞
	2 「わらべ歌」について知り、遊びながら歌う。 【一斉】	○「わらべ歌」で遊んでみましょう。	○ゲーム的要素を取り入れ、「わらべうた」に楽しく取り組ませるようにする。	
	「わらべ歌」のひみつを発見し、「わらべ歌」のよさを感じながら歌おう。			
分析 20分	3 2音と3音の「わらべ歌」に使われているリズムを調べる。 【個人】→【ペア】	○歌詞に合わせて、リズムカードをならべよう。	※歌詞に合わせて、手拍子をさせたり、リズムカードを並べさせたりすることで、使われているリズムを理解させる。また、児童が並べたカードを見取って理解できているかを確認する。	リズム カード
	4 それぞれの「わらべ歌」の音階について知る。 【個人】→【ペア】	○どんな音が使っているか調べよう。	○身体表現や階名唱により、音の高低をつかませたり、2～3音の構成音に気付かせたりする。 ※フェルトの五線譜に使われている音を並べさせ、構成音が理解できたかを確認する。	フェルトの五 線譜
再経験 10分	5 2音3音のわらべ歌のリズムや構成音を感じながら歌う。 【一斉】	○小さい子ども達と遊んであげているような歌い方を工夫してみよう。 ○「おてぶしてぶし」の歌に合わせて別の遊びをしよう。 ・小物を持っている人を鬼は当てる遊び。小物を持っている人に近づいたら大きく歌い、遠ざかったら小さく歌おう。	○歌遊びを取り入れることで、「わらべ歌」の持つ楽しさや温かさを体感させる。 【評価：音楽表現の創意工夫 (観察、アセスメントシート)】	
評価 5分	6 本時を振り返る。 【個人】	○「わらべ歌」のひみつをまとめよう。	※アセスメントシートに、使われている音と「わらべうた」の紹介文を記入させることで、本時の「わらべ歌」を知覚・感受できたかを、確認する。	アセス メント シート

6 本時の学習（検証授業Ⅱ）

(1) 目標

律音階と都節音階による「子もり歌」の雰囲気の違いを感じ取り、曲想表現に生かすことができる。

(2) 評価基準

(基準B) 律音階・都節音階のそれぞれの旋律と曲の雰囲気の違いが分かり、曲想表現に生かそうとしている。

(基準A) 音階と都節音階のそれぞれの旋律と曲の雰囲気の違いが分かり、「子もり歌」の表現に生かして歌っている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
経験 10分	1 既習の「わらべ歌」を歌う。【一斉】 2 「子もり歌」の範唱を聴き、それに合わせて歌う。【一斉】	○「わらべ歌」でまず遊びましょう。 ○「わらべ歌」はいくつの音できているかな？ ○範唱を聴き、それに合わせて歌おう。	○リラックスし、音楽を楽しむ雰囲気作りに心がける。 ○日本の音階が5音階であることを、確認させる。 ○5音階で構成された子もり歌を通して、日本の歌の美しさを感じ取って表現する学習することを伝えた後聴唱し、曲全体の流れをつかませる。	
分析 20分	3 律音階と都節音階の「子もり歌」の雰囲気の違いを考える。【一斉】 4 律音階の構成音と都節音階の構成音を考える。【個人】→【一斉】	○それぞれの「子もり歌」曲の雰囲気を考えよう。 ・明るい、やさしい等 ・暗い、さびしい等 ○なぜ違うのか「子もり歌」の秘密を探そう。 ○使われている音を五線譜に並べてみよう。	○曲を聴き比べ、雰囲気の違いとして感じたことを発表させる。 ○音階を調べるヒントとして、まず、律音階の構成音を電子黒板上の鍵盤で確認させ、五つの音のうち二つ音が違うのが都節音階であることを伝える。 ※電子黒板の鍵盤に見たり触れたりすることで、使われている音を探し確認する手立てとする。 ※五つの音のうちどの音に♭がつくのかを考える手立てとしてフェルト五線譜を用意する。	歌詞 電子黒板
再経験 10分	5 音階による雰囲気の違いを感じ取り歌う。【一斉】 ・ラララ唱 ・歌詞唱	○ラララで歌って2曲の特徴を感じ取ろう。 ○歌詞と旋律をかかわらせ律音階と都節音階の違いを感じながら歌ってみよう。	○音階の違いと曲の雰囲気の違いを感じさせるために、歌詞のないラララで歌わせ、その後歌詞を付けて歌詞と曲の雰囲気を感じながら歌わせるようにする。 【評価：音楽表現の創意工夫（観察、アセスメントシート）】	フェルトの五線譜 拡大譜
評価 5分	6 律音階と都節音階の曲を聴き、アセスメントシートに答える。 ・「五木の子守唄」【個人】	○二つの音に♭がついたことからどのように雰囲気が変わりますか。また、今から曲を流しますので、それを聴いてどちらの音階が使われているのかを感じ取ってください。	※律音階と都節音階の構成音と曲の雰囲気との関わりが理解できたかを、アセスメントシートにより確認する。	アセスメントシート